

# 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立狭山中学校

## 1. 本年度の学力・学習状況調査結果の概要について

- ・国語に関して、A問題の平均正答率は昨年度の本校実績から 4.2 ポイント、B問題の平均正答率は 6.7 ポイントとそれぞれ上昇しています。国語Bの記述式問題の正答率は全国平均を上回っています。また、国語ABともに、無解答率が全国平均を下回っています。
- ・数学に関して、A問題の平均正答率は昨年度の本校実績から 3.3 ポイント、B問題の平均正答率は 0.6 ポイントとやや下降したものの、数学Aでは、領域別の平均正答率がすべての領域で全国平均を上回っています。また、数学ABともに、無解答率は全国平均を下回っています。
- ・生徒質問紙において、「学校の規則を守る」「総合的な学習への主体的な取り組み」の項目で肯定的な回答の占める割合が全国平均を上回っています。一方で、「自尊感情の醸成」「学校生活」「学習状況」「社会に対する興味関心」などの項目において、肯定的な回答の占める割合が全国平均を下回り、課題が感じられます。

## 2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語についての知識・理解・技能」の問題では、概ね良好な結果です。</li> <li>・「漢字の読み書き」、「楷書と行書の違い」「文章での表現」「古典」の問題の正答率は全国平均を上回っています。</li> <li>・「文章の表現の仕方について自分の考えを持つ」問題の正答率は全国平均を上回り、相当数の生徒ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す」問題の正答率は全国平均を下回り、スピーチする際には事実と意見との関係に注意して、話を構成するように指導する必要があります。</li> <li>・「事実や行為などを表す多様な語句について理解する」問題の正答率が低く、生活の中の様々な場面や状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動の工夫が必要です。</li> </ul>
国語 B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」に関する問題の正答率が全国平均を上回っています。</li> <li>・「表現の仕方について考え、自分の考えを書く」「必要な情報を集めるための見通しをもって、自分の考えをまとめる」問題では全国平均を大きく上回り、書く力に成果がみられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す」問題の正答率が低く、交流を通して振り返り、よりわかりやすい内容や表現の仕方について、考えて話すように指導する必要があります。</li> </ul>
数学 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字式、方程式、平面図形、立体図形、比例、確率統計など、ほとんどの領域において概ね良好な成果が出ています。</li> <li>・関数分野のグラフから式を求める問題に関しては顕著な成果がみられます。</li> <li>・確率に関する問題の正答率は全国平均を上回り、一定の成果がみられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「関数の意味」「比例定数の意味」「範囲の意味」に関する問題の正答率が低く、知識・理解の面で課題が見られます。</li> <li>・基本的な四則計算や平面図形の問題で、課題がみられ、基礎・基本を確実に身につけるよう指導することが必要です。</li> </ul>

数学B 〱主として活用〱	・「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」問題の正答率は高く、相当数の生徒ができています。 ・「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理する」問題の正答率は全国平均を上回っています。	・記述式問題の正答率が低く、無回答率も高いことから、筋道立てて考え、証明することに課題がみられます。 ・図形の回転移動に着目した説明問題の正答率は非常に低く、数学的な表現を用いて表現することに課題がみられます。日常的な事象において、その事象の特徴を的確に捉え、数学的に表現できるように指導する必要があります。
-----------------	--	---

### 3. 本校の学力向上に関する現在の取り組みについて

#### ①授業力の向上

～ICT 機器を活用した授業展開 英語～



～校内研究授業実施 年3回～



#### ②指導方法の工夫・改善

～習熟度別少人数指導 数学～



～ALT による英語コミュニケーション～



#### ③早朝・放課後学習会

～毎週火曜日朝の漢字テストを全校実施～



～放課後勉強会 地域人材の活用～



#### 4. 今後の取組みの方向性について

### 1. 学力向上に必要な意識を高めるための取組み

学力向上に最も必要なことは、生徒自身が学ぶことに興味・関心を持って主体的に学ぼうとする学習意欲です。学校生活の8割は授業であり、その授業が楽しければ学校も楽しいはずです。「一人も見捨てない」理念のもと、「教師がどう教えるかではなく、生徒がどう学ぶか」を大切に、学校全体でどの生徒もが主体的に取り組む授業研究に取り組んでいきます。また、自尊感情や学習状況などの質問紙調査結果に課題が見られることから、一人ひとりを認める評価のあり方や生徒同士が学び合う活動に重点を置いて取り組んでいきます。

### 2. 学力向上のための取組み

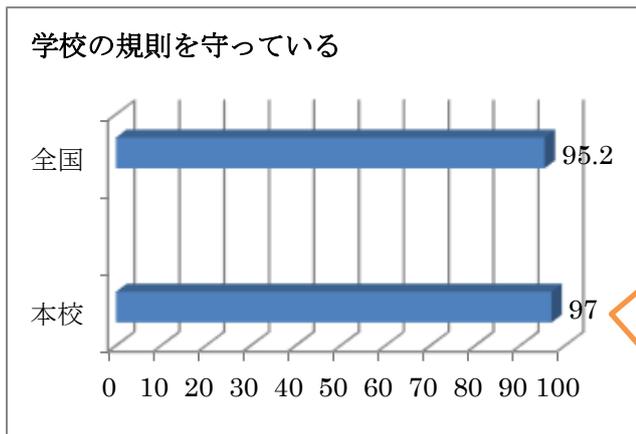
- ◎質問や疑問に対して、単に答えを教えたり解説を加えるのではなく、より具体的な解決の手だてを提示したり、考えるヒントを提供することで、主体的に解決しようとする姿勢を育てます。
- ◎板書を写すだけでなく、自分の考えをノートに記すように指導することで、思考力や表現力を伸ばしより深い学びをすすめます。
- ◎「課題・宿題の提出」について丁寧に指導し、点検・評価をきめ細かく実施することで、個々の能力の把握と改善に努め、家庭学習の充実を図ります。
- ◎数学、英語、国語で実施している少人数習熟度別指導をさらに充実させるとともに、すべての教科において、生徒が主体となって互いに教え合ったり、説明し合ったりできる授業づくりを進め、「やればできる」という達成感と「皆が頑張っているから自分も頑張ろう」という連帯感を体験させ、対話的に学ぶ意欲を高めます。
- ◎定期テスト前にはテスト前質問会を実施し、夏休みや放課後には大学生やボランティア等の学習支援チューターの協力のもと、自学自習会を実施します。
- ◎生徒が意欲・関心をもつような、わかりやすく楽しい授業、活気のある授業が展開できるように、各教科で授業研究・相互意見交換を行います。また、全教員による校内研究授業を実施し、学習の流れや形態の統一や共有を図りながら、授業力の向上に努めます。
- ◎班活動を重視した取組みが、仲間意識の高揚と表現力の向上につながっています。特に、自分の考えを説明する場や振り返りの場を設定することで、自分の考えをまとめる力や表現力の向上につなげるよう工夫しています。
- ◎授業の冒頭で、目標（めあて・ねらい）を提示し、最後にまとめ（小テストや振り返り）の時間を設定します。全学級で可能な限り統一した形式のユニバーサルデザインを心がけます。
- ◎プロジェクトやパソコン等のICT機器やデジタル教科書を活用し、授業の工夫改善に努めます。
- ◎生徒や保護者による授業評価を行い、今後の指導や授業改善に生かします。

### 3. 地域・外部人材の活用した取組み

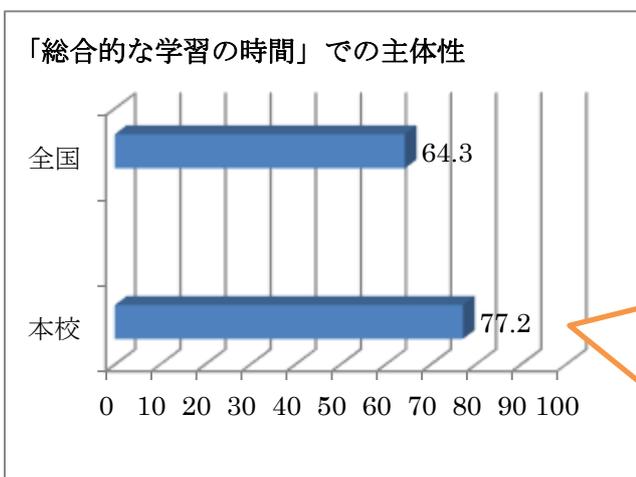
- ◎多様な生徒の意欲を引き出すために、様々な人材や教材を活用します。
- ◎道徳の時間では、「私たちの道徳」や学校作成教材を使い、各教科や行事と関連づけながら、学校・学年・クラスがより安心・安全な場所になるよう、感性、人間性、社会性を磨くような時間にします。
- ◎地域の専門家の方々や図書館司書の方に支援をいただき、学習指導や部活動指導、読書指導の充実を図ります。
- ◎「さやまっ子ティーチャー」を活用し、支援が必要な生徒への働きかけを行っていきます。
- ◎様々な体験学習ができるよう、地域資源（人材・施設・設備など）を活用し、地域とのつながりの中で生徒自身が自分の将来を夢描けるような計画を立案していきます。

## 5. 生徒質問紙調査の結果の概要

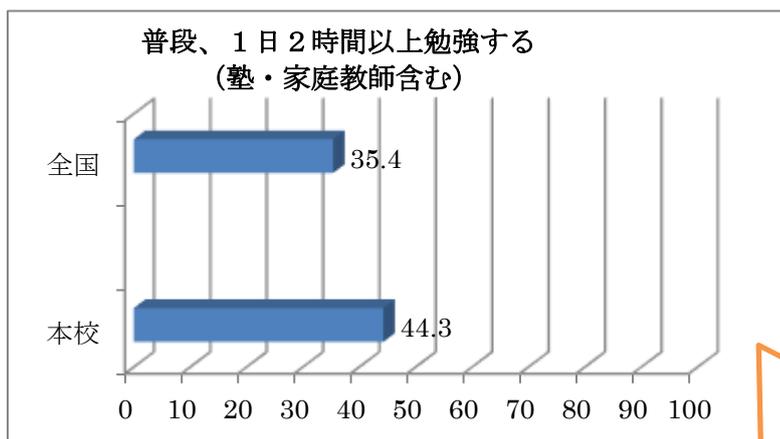
〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉



●「学校の規則を守っていますか」という質問に関して肯定的な回答の割合は高く、普段の学校生活も落ち着いた状態を保ちながら、授業が展開されています。将来の社会形成者として、社会に貢献しようとする意思の醸成と、次期学習指導要領を意識した、より一層の道徳教育に力を注いでいきます。



●「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に関しては、肯定的な回答の割合は全国平均を大きく上回っています。今後は、次期学習指導要領との整合性を図りながら、内容の精選を検討していく必要があります。

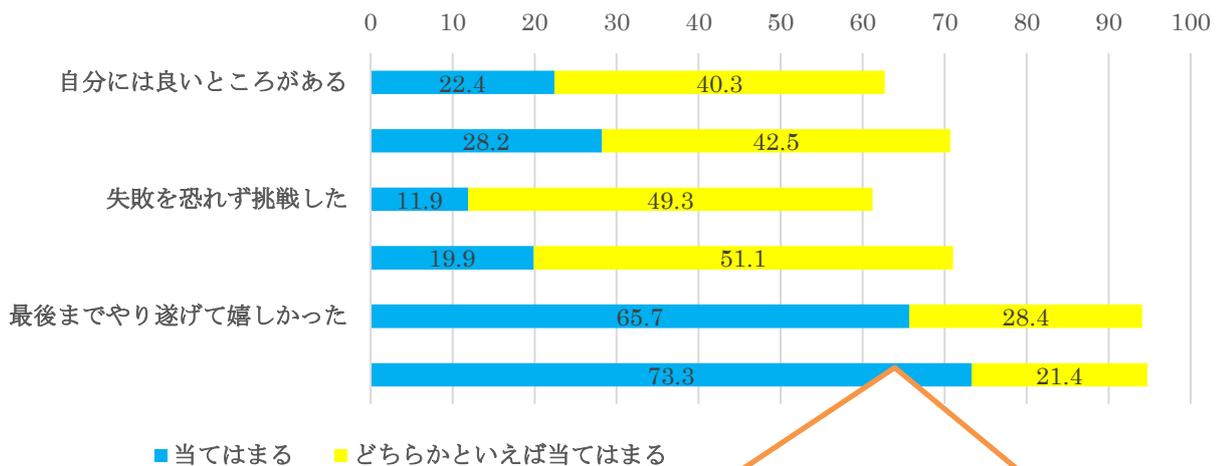


●本校の生徒はよく勉強をしています。学習塾や家庭教師等を利用している生徒の割合が多いという状況でもありますが、日々の宿題や長期休暇明けの課題提出などは、ほぼ全員が個人の目標を達成しています。これは、教職員の継続した声掛けと、各家庭における学習支援の成果であると考えています。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

自尊感情

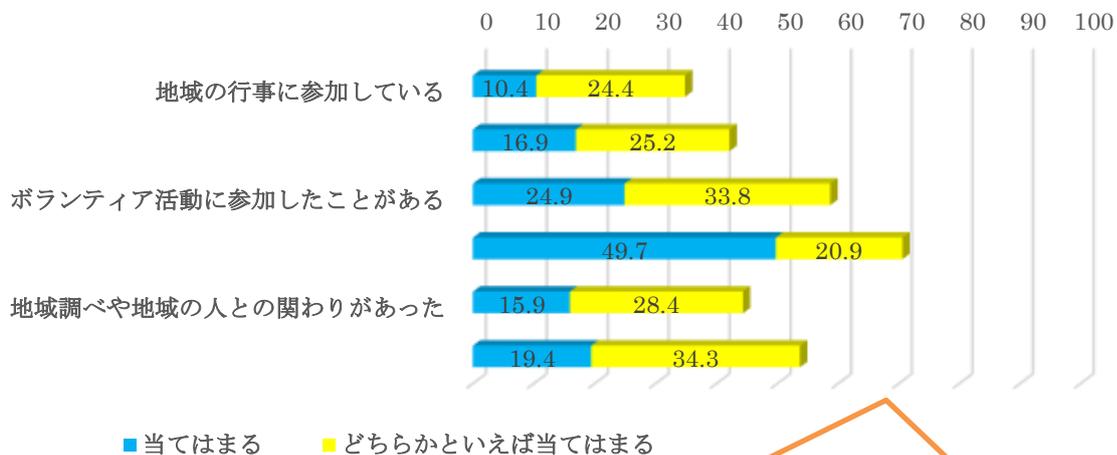
上段・本校 下段・全国



● 「自分には、良いところがあると思いますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という質問に関して、肯定的な回答の割合が全国平均よりも下回っています。今後、生徒自身が主体的に行動し、自尊感情を高めていくために、授業や学校行事等において、自力解決や集団解決の場を意図的に設定したり、生徒間での相互評価を取り入れたりするとともに、指導者の肯定的評価を積極的に行っていく必要があります。

社会に対する興味関心

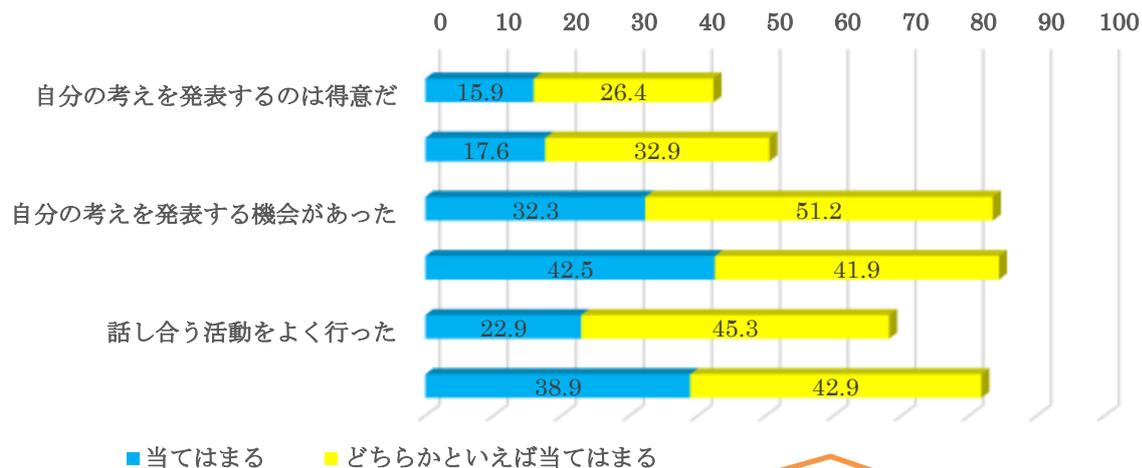
上段・本校 下段・全国



● 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「1・2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」という質問に関して、肯定的な回答の割合が全国平均よりも下回っています。生徒の主体的な活動を視野に入れながら、次期学習指導要領の内容と照らし合わせ、地域の力を活用した様々な体験学習を今後の指導計画の中に盛り込んでいく必要に迫られています。

## 主体的・対話的な学習活動

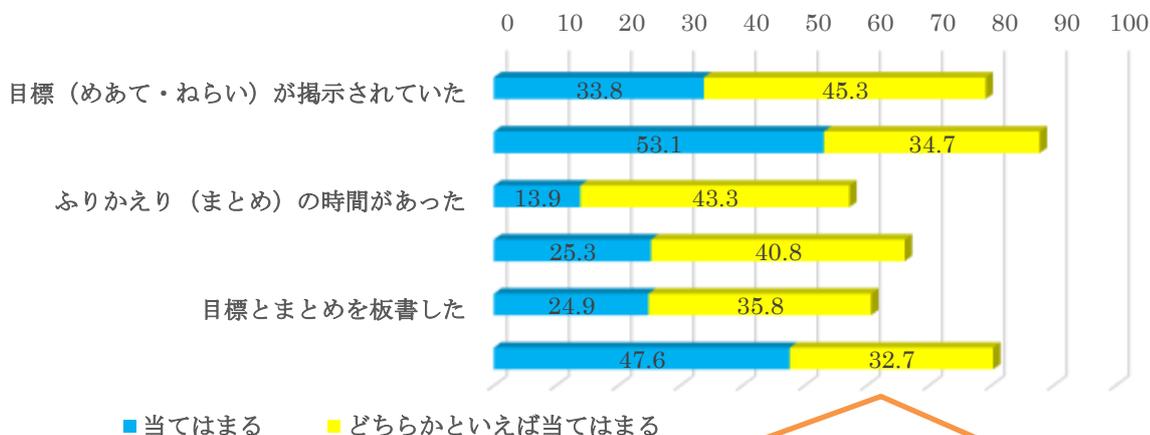
上段・本校 下段・全国



● 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という質問に関して、肯定的な回答の割合が全国平均よりも下回っています。今後、生徒自身が主体的に行動し、ペアワークやグループ学習などを駆使した対話的な授業を、ICT 機器などを有効活用して積極的に展開していく必要があります。

## 学習指導状況

上段・本校 下段・全国



● 「1・2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「1・2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」「1・2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」という質問に関して、肯定的な回答の割合が全国平均よりも下回っています。今後、生徒自身が主体的・対話的な学習活動を進めていく中で、単元等のまとまりを見通して授業を組み立て、どの場面で深い学びを実現していくかが重要です。そのためにも、「めあて」と「まとめ」の意識づけは必要不可欠なものであるという認識を徹底していきます。

## 6. 保護者・生徒のみなさんへ

日々の学習活動において、みなさんのこれまでの地道で継続的な努力が、本年度も大きく成果として表れています。3年間という限りある中学校生活を有意義な時間にするため、学校での勉強はもちろんのこと、委員会やクラスの係活動、クラブ活動、そして家庭での様々な場面で、今以上の頑張りを見せてほしいと願います。これまで身につけた力をさらに発展させるため、以下のことを心がけてください。また、各ご家庭でもご指導をお願いいたします。

- 規則正しい生活を続けましょう。「早寝・早起き・朝ご飯」を実行しましょう。
- お互いの信頼関係を深めるため、元気よくあいさつをしましょう。
- さまざまな約束事を守りましょう。(学校のルール・家庭のルール・地域のルールなど)
- お家も、学校も、自分の心も清めるため、清掃活動にしっかり取り組みましょう。
- 授業には積極的に参加しましょう。自分の意見をしっかりと持ち、すすんで発表しましょう。
- 学校以外の時間を大切にしましょう。毎日、少しずつ予習・復習する時間を増やしましょう。
- お家の人に毎日の報告をし、何かあったら相談しましょう。たくさんお話をしてください。
- その日一日を落ち着いて振り返る時間を持ち、翌日に備えましょう。